

松原公園周辺の将来像（素案）

沿革

- 1772（明和 9） 佐賀藩祖直茂公を祀る**松原神社**（日峯社）創建
- 1817（文化 14） 松原神社参道として**新馬場**が開かれる
- 1840（天保 11） 藩校**弘道館**の移転拡張
- 1913（大正 2） **直正公銅像**建設、**佐賀図書館**落成
- 1927（昭和 2） **徴古館**開館
- 1933（昭和 8） 別格官幣社**佐嘉神社**創建、直正公遷座
- 1991（平成 3） **松原川整備**事業完成
- 2011（平成 23） **松原公園**開設

環境の変化

- 4核構想「佐嘉神社・徴古館地区」、南北軸「歴史・文化・芸術の拠点エリア」
- 直正公銅像再建、明治維新 150 年を契機に、幕末佐賀藩の偉業を再認識
- N H K 佐賀放送会館移転、くすかぜ広場（ARKS）、こころざしのもり等の整備

基本理念

- 松原一帯は、江戸時代からの歴史の変遷を経て、現在は龍造寺家、佐賀藩祖を祀る松原神社、10代藩主直正公を祀る佐嘉神社（旧別格官幣社）、鍋島家伝来品を所蔵する徴古館があり、佐賀の歴史文化の象徴となる意義深い場所
- 現代においては、SAGA サンライズパークからの南北軸の動線上にあり、また、まちなかと城内とを結ぶ重要な位置にあり、まさに「歴史」と「まち」をつなぐ場所
- このため、核となる松原神社・佐嘉神社・徴古館と、松原川や楠の緑と相まった歴史的景観の維持向上に取り組み、佐賀の人々が誇りに思い、未来（後世）にしっかりと継承していけるような場所へ
- さらに、組織の垣根を越えて、神社、鍋島報効会、県、市が連携することで、ここを起点とした周辺との回遊を創り出せる場所へ

将来像 『 』

歴史と風格を感じさせる空間／鍋島家の伝統と品格／アイデンティティの確立／佐賀を象徴するエリア／歴史の継承／安らぎと癒しの空間／市民県民が誇れる場所／歴史とまちをつなぐ場所
公園の自然や神社の樹木／松原川のせせらぎ

基本事業

- 松原公園の拡張整備
- 松原川の環境整備
- 新馬場通り（松原神社参道）の整備
（○神社エリアの再整備～佐嘉神社創建 100 年に向けて～）
- 鍋島報効会、佐嘉神社等が保有する貴重な歴史資料の公開・活用
- 松原一帯の歴史と伝統、環境等についての周知啓発
- 城内、中央大通り、柳町等と結ぶ周遊・回遊ルートの構築
（○鍋島報効会、佐嘉神社、佐賀県等の関係者との連携維持）